

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：32412
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：24720040
研究課題名(和文) 環境思想の継承 オクタヴィア・ヒルとナショナル・トラストの関係についての一考察

研究課題名(英文) Inheriting Environmental Philosophy -The study of the relationship between Octavia Hill and The National Trust

研究代表者
木村 美里 (KIMURA, Misato)
聖学院大学・基礎総合教育部・特任助手

研究者番号：80548561
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)： 当該研究は英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒルと英国の環境保護団体ナショナル・トラストとの関係におけるヒルの思想と活動の分析を行うとともに、彼女の思想及び活動の現代的意義を考察した。ヒルは英国ナショナル・トラスト創設者の1人であり、貧困層の住宅改良を行った人物としても知られている。本研究の成果はトラストにおける彼女の考えと活動を整理し、その詳細を明らかにしたことである。

研究成果の概要(英文)： This study will assess the relationship between Octavia Hill and The National Trust. Moreover, the meaning of her thoughts and work as they apply to contemporary times will be discussed in this study. Hill is one of the founders of the National Trust and also known as a housing reformer for the poor.
As a result of this study, the details of her thoughts and work in the National Trust will hopefully be clarified.

研究分野：環境思想、日英比較研究

キーワード：オクタヴィア・ヒル ナショナル・トラスト 思想史 環境思想 継承 国際情報交換 イギリス

1. 研究開始当初の背景

(1) 当該研究は、英国の女性社会改良家オクタヴィア・ヒル(以下、ヒルとする。)と同じく英国の環境保護団体ナショナル・トラスト(以下、トラストとする。)の関係に着目した研究である。

(2) これまでの環境思想研究では環境思想の歴史の変遷、環境保護か経済かの二者択一の思想、人間中心主義対非人間中心主義の環境思想あるいは経済を主体とした環境との調和論の是非が議論されてきた。しかし環境保護の重要性が説かれながらも、現状では経済至上主義と開発促進が止まらず、環境は破壊の一步をたどっている。このような世界規模の問題に対応すべく、新しい「環境思想」が求められ、精神的基盤として継承してゆくことを考える必要性が生じている。

(3) この精神的基盤を育てるためには、やはり「美しい環境」が重要な係わりをもつ。すなわち、精神的基盤と環境の相互関係が正常に機能することで、地球環境あるいは人間の心身の健全性が保たれるといえる。近年の環境保護研究でも精神の重要性が指摘されており、この精神を後世へ伝える方法の模索が今後の課題になると推察した。

当該研究は、環境保護理念のひとつとして過去・現在・未来をつなぐ精神の永続性を人々に伝えることが急務であると考え、この考えの延長上に位置づけられる。

(4) 日本におけるオクタヴィア・ヒルの先行研究では、主に住宅改良、オープン・スペースに関する研究が挙げられる。しかし、トラストとヒルの関係に視点をあてた研究は、彼女の生涯の中で行った活動のひとつとして取り扱うことは多くあっても、その関係のみに特化したものは現状として少ない。当該研究開始以前から、研究代表者は精神的基盤の重要性に着目し、環境保護の分野で成功を収めたといえるヒルとトラストについての研究を行ってきた。しかしながら、初期の研究ではヒルの全体像を捉え、その中でトラストとの関係を扱い、彼女の精神的基盤である「永続する精神」の重要性を論じたにとどまった。

以上のことを背景に、当該研究においてヒルとトラストの関係をさらに深く探究するに至った。

2. 研究の目的

(1) 当該研究の目的は、「いかにして環境思想の継承を行うか?」という問いの答えを模索し、人々への指針・啓発とすることにある。

(2) 具体的な目的は以下の2点である。

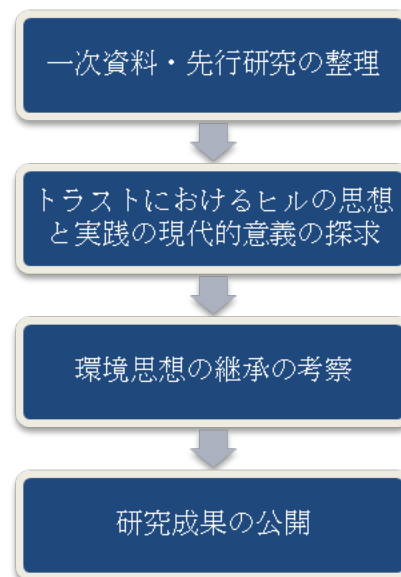
ヒルとトラストの関係に限定して一次資料や先行研究の整理・分析を行うこと。

トラストにおけるヒルの思想と実践について、その現代的意義の解明を試みること。

(3) 当該研究は今後の環境保護における課題解決のために、自然を含む他者との共生を目指す環境思想の永続的な受け継ぎ方を探究すること、また、自然環境保護のみならず、他の研究分野(教育・観光・経済など)との協働関係の発展という点に寄与することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 研究の主な流れは下記の通りである。



(2) ヒルの一次資料の整理では、ヒルとトラストの関係に限定して資料分析を行った。

(3) 先行研究の整理では、一次資料の整理と同様にヒルとトラストの関係に限定して行った。

(4) 国内トラスト関連施設(公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会及び公益財団法人日本ナショナルトラスト)への視察を行い、英国ナショナル・トラスト関連の情報・資料収集を行った。

(5) 海外のヒル及びトラスト関連施設(オクタヴィア・ヒル生誕博物館及び英国ナショナル・トラスト本部など)への視察を行い、ヒルとトラスト関連の情報・資料収集を行った。

(6) 国内・海外研究調査で得た新たな資料・情報の整理・分析を行った。

(7) 一次資料・先行研究、新たな資料・情報の整理と分析を踏まえて、トラストにおけるヒルの思想と実践の現代的意義を考察した。

(8) (7)の結果をもとに、環境思想の継承について論じ、研究成果を公開した。

4. 研究成果

(1) ヒルにおけるトラストの活動は晩年のことであるが、両者の関係はトラストの創設準備からヒルが亡くなるまでの約 20 年間もの年月が対象となる。先行研究を整理した結果、ヒルがトラストの創設者であることに基づき、アピールを担当していたことが共通認識されている。また研究調査等を通して考察の必要な点を明確化した。この成果は日本比較文化学会での学会発表と学会誌『比較文化研究』No.107 にて報告・公開した。

(2) 国内のトラスト関連施設視察の研究成果は『聖学院大学総合研究所 Newsletter』にて報告・公開した。またこの研究成果は機関リポジトリ SERVE においても公開している。

(3) 海外のトラスト関連施設視察で得た情報・資料(創設者同士の書簡を含む)を用いた研究成果は、「共有する自然美と文化遺産 - オクタヴィア・ヒルにおける環境思想の継承をめぐって - 」と題して日本比較文化学会での学会発表と学会誌『比較文化研究』No.115(雑誌論文)にて報告・公開した。

(4) 2013 年 12 月には小規模の研究会を開催して 2 名の研究協力者より専門知識のご提供をしていただいた。またこの際に平成 25 年度の研究成果報告(その他)を行った。この際の参考資料も上記論文(雑誌論文)にて引用した。

(5) この他同論文(雑誌論文)において特筆すべき点は、以下の 2 点である。

トラスト創設の際にヒルたちが参考とした、アメリカの環境保護団体 The Trustees of Public Reservations (現: The Trustees of Reservations、以下 TTOR とする。)とトラストの関係は、ヒルの友人からの資料提供以外に接点が不明確であったが、トラストが発行している初期の年次報告の中で簡潔に TTOR のことが紹介されている。このことと同時に、TTOR 側の年次報告書の中でもトラストのことが紹介されている。

さらに TTOR の年次報告書を調べた結果、ヒルの論文「オープンスペースの未来」の一部が引用されていることを発見した。したがって、ヒルの思想・活動は住宅改良についてのみならず、オープンスペース運動やトラス

トについてもアメリカに伝わっていたことが事実として明らかとなった。

(6) 3 年間の研究成果をまとめ、最終的な報告を添えて『平成 24~26 年度科学研究費補助金 若手研究(B)研究成果報告書』(その他)として冊子を作成した。

(7) 雑誌『at プラス』(引用文献)の中で、研究成果の論文(雑誌論文)が参考文献として取り上げられた。

(8) 当該研究調査を通して「環境保護活動に近道はなく、時間がかかる」という意識が共有されていることが明らかになったが、換言すれば、長期の環境保護活動に対応するための確固たる思想的基盤を各人が共有していなければならないことを示している。したがって「いかにして環境思想の継承を行うか」の問いの答えのひとつは、環境を含む他者を思いやる心を一人一人が自覚し、実践的な活動を伴った環境思想を後世へ伝えてゆくことといえる。

(9) 今後の展望として、ヒルにおける環境思想の継承から、環境教育の視点も必要かつ重要であるとの考えに至った。それゆえにヒルの教育思想に着目した基礎研究を行い、環境教育及び次世代のトラスト研究に結びつく研究につなげることを目指す。

<引用文献>

山崎 亮「姉弟子、オクタヴィア・ヒル」『at プラス』、21、太田出版、2014、pp. 127 - 143 (* p. 143・参考文献)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

木村 美里、「共有する自然美と文化遺産 - オクタヴィア・ヒルにおける環境思想の継承をめぐって - 」、『比較文化研究』、査読有、No.115、2015、pp. 159 - 168

木村 美里、「英国ナショナル・トラスト創設者の思想と活動 - オクタヴィア・ヒルと英国ナショナル・トラストの関係をもめぐって - 」、『比較文化研究』、査読有、No.107、2013、pp. 43 - 52

木村 美里、「活用しながら後世に日本の心を伝える - 公益財団法人日本ナショナルトラストの事務所訪問の報告 - 」、『聖学院大学総合研究所 Newsletter』、査読無、Vol.23・No.2、2013、pp. 19 - 21
http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5042

木村 美里、「「永続する精神」の雲を見上げて - 公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務所訪問の報告 - 」、『聖学院大学総合研究所 Newsletter』、査読無、Vol.23・No.1、2013、pp. 12 - 14
http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4497

〔学会発表〕(計 2件)

木村 美里、「共有する自然美と文化遺産 - オクタヴィア・ヒルにおける環境思想の継承をめぐって - 」、日本比較文化学会、2014年6月14日、北九州国際会議場(福岡県・北九州市)

木村 美里、「英国ナショナル・トラスト創設者の思想と活動 - オクタヴィア・ヒルと英国ナショナル・トラストの関係をめぐって - 」、日本比較文化学会、2012年12月1日、東北福祉大学(宮城県・仙台市)

〔その他〕(計 2件)

木村 美里、『平成 24~26 年度科学研究費補助金 若手研究(B) 研究成果報告書』(冊子)、2015.3、pp. 51

木村 美里、「科学研究費補助金 平成 25 年度研究報告」、環境思想の継承 オクタヴィア・ヒルとナショナル・トラストの関係についての一考察 研究会、2013年12月21日、立教大学(東京都・豊島区)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 美里 (KIMURA, Misato)
聖学院大学・基礎総合教育部・特任助手
研究者番号：80548561